

< MVP : 最高の笑顔で働く社員 >

お客様に頼られる自分に

このコーナーでは、目覚ましい活躍をした社員や将来有望な社員を顕彰します。第5回目は、営業の緒方大人（おがた・ひろと）さんです。

私は2008年4月、縁あって加山興業(株)に入社しました。当初の2カ月は、中間処理施設の現場業務に携わりました(各設備に2週間ずつ)。少年時代よりサッカーをしており、体力には自信があったのですが、現場での仕事は、また違った筋肉を使いますので大変でした。しかし、そこで現場従業員の方との人間関係を作らせていただきましたし、得た経験や知識は、営業の仕事を始めから充分活かされていると実感しています。

入社する前は、この業界を全く知りませんでした。前職は事務機の販売でしたので、180度違う世界に飛び込むことを決めるまでは、多少の時間を要しました。加山取締役や河野企画部長、現在の上司の星野主任など様々な方からお話を聞き、会社のイベントに誘っていただき参加したりする中、「この会社なら」と最終的に決断しました。

営業を始めてからは「苦勞して当たり前、すべてが勉強」との思いで、何事にも挑戦してきました。最近では、新しいお客様とのお取引も徐々に

増え、他のお客様を紹介していただくこともあります。そして何より嬉しかったのは、お客様から相談を受けた時でした。「もっと頼っていただける自分になろう」という、新たな意欲が湧いてきました。

これからも「ごみのことなら緒方に聞け」と言われる人間に成長できるよう、さらに自分を磨いていく決意です。



CO2排出量取引市場の試行的実施に参画 業界トップを切って、目標設定企業として



< トピックス >

「日本モデル」の構築に寄与

加山興業(株)は、国の「低炭素社会づくり行動計画」にもとづき2008年10月に試行的実施が始まった「排出量取引の国内統合市場の試行的実施」について、環境省管轄の自主行動計画参画企業の産廃業者として申請、取り組みを開始しました。

域内排出量取引制度は、EUではすでに約4年前からスタートしています。わが国の「排出量取引の国内統合市場の試行的実施」は、排出量取引を本格導入する場合に必要な条件や制度設計上の課題などを洗い出し、「日本モデル」を構築を目指すのが目的です。

加山興業は今回、「運輸部門」で申請しており、収集運搬を目標設定の対象としています。

デジタコを導入、エコドライブも徹底

具体的には、目標達成を目指し収集運搬時のCO2排出を抑制するためデジタコを導入したほか、「エコドライブ」の徹底を目的に研修会も行っています。また、配車と社内工場の出荷等の連携を強化し、輸送の無駄を排除するなどの計画を行動に移しています。

今後、車両の劣化による燃費の悪化等のマイナス材料が想定されることから、課題クリアするための検討を行っていく予定です。

CO2の削減取り組みの結果が良好であれば、削減分での排出量取引も考えていく方針です。

廃棄物のことなら当社にお任せください!!

●WEBカメラ作動中! ●当社車両全てにGPS搭載!!



場内WEBカメラを使用しリアルタイムに廃棄物の処理工程をご確認頂けます!

見学随時受付中!



押出成形RPF燃料化処理能力192.96t/日



選別-8品目-処理能力751.92t/日



焼却-12品目-サーマルリサイクル処理能力15.1t/日



木くず処理能力105.144t/日



蛍光灯処理能力1.8t

加山興業株式会社 Industrial Wastes Disposal Co., Inc. E-mail info@kayama-k.co.jp

豊川営業所・リサイクルプラント
TEL.0533-89-0375 FAX.0533-84-3739

Topics

加山興業(株)は、2009年6月8日から14日にかけて、アメリカの固形廃棄物やリサイクルに関する北米最大の展示会「Waste Expo 2009」及び、現地の廃棄物関連企業や自治体を視察ツアーに5名が参加、米国の循環資源ビジネスについて見聞を広めました。今回は、その視察参加者によるレポートを掲載します。

〈海外レポート〉

アメリカの廃棄物事情を視察 ビジネスの可能性を探る

6月9日

WASTE EXPO 2009

展示会では機器メーカーが多く出展しており、廃棄物処理会社はウエストマネジメント社など数社でした。法律も道路事情等も異なる為機器は大型のものが多く日本で転用は難しいとの印象でした。しかし一面、大型の処理・運搬車両は日本の物と比べると魅力的に映りました。焼却処分は皆無で、埋立て至上主義は依然として健在。機器、車両のアイデアは面白い。

6月10日

NVCCU RECYCLING

産業廃棄物処理工場を経営、選別を主体として、肥料などの製造も行っていました。選別ヤードは現在、両晒しでしたが建屋も建設さ

れており、選別機器の納品待ちとのこと。同時に拡張も回る様子でした。こちらでは地域の業者の結合が強く裁判を起こしてリサイクル目的の営業許可を勝ち取り営業拡張、廃棄物の受入れ価格は約9 \$/m³、選別プラ、紙、金属などを売却しています。

廃棄物を選別し有価物として転売、残渣は埋立していました。やはり廃棄物処理業者も排出側もリサイクル意識は乏しいのでは。

拡張予定工場が完成しつつありますが、リサイクル率は日本に比べ低い数値です。米国自体が埋立てに対し抵抗無く、大量生産、消費、廃棄が主流。その中で同社は貴重な存在の様子。日本で同規模レベルの会社は山ほどあると思う。処理単価も安く、処理業というより販売による利益が主力なのではないでしょうか。



写真におよぶ企業視察の一団



資料とシンプルにアメリカの処理施設

6月11日

Department of the environment 社

同社は、サンフランシスコ市から排出される廃棄物の集積と処理を請け負っているプライベートカンパニー。元はイタリア系会社。歴史は1932年にサンフランシスコ条例で97カ所あったイタリア系の廃棄物処理会社や埋立地を統合し同社を含め数十社に許可を与えた。一般廃棄物の受入から産業廃棄物の運搬処理も行っており、受入価格なども市の方で調整し同社が経営している価格で設定。年度での入札はないとのこと。

受入れた廃棄物は一度選別し、リユースで売れる物はリサイクルショップへ売却、ペンキなども余っており、使えるものは無料にて配布されています。その他、木くずや廃プラ、金属などの分別も行っています。しかし、大部分は埋立処分に戻っているようです。

埋立てはウエストマネジメント会社で行われています。1983年に契約したレートで設定されており、20 \$/tで処理されていますが、今後はもう少し高くなっていく模様。

6月12日

PETALUMA WASTEWATER TREATMENT FACILITY

ペタルマ市の下水処理施設。同市は人口5万8000人で、こちらの施設は90エーカー

(約36万4000m²)で、2002年度から新しくバイオトープを取り入れた施設デザインを完成し現在も着工中で、7月には全体が完成する。建設費は1億\$で、年間20億ガロンの処理を目標としています。地域的には工業がほぼ無く、ほとんどが農家やサービス業、一般世帯からの受入です。

施設は設計に自然との共生、環境創造性が盛り込まれ、素晴らしい施設でした。ただ、周辺も自然が広がっており、これが市街地に建設できると価値はさらに上がるのでは。

日本の下水道事業団や市町村の職員に参考にしてほしい施設でした。農業系の排水の高重金属の心配より病原菌が心配なようで紫外線殺菌施設も併用していました。

6月12日

MBA POLYMERS 社

同社はプラスチックの買取りや廃棄物としての請負、選別と加工販売を手がけています。

米国とオーストリア、中国に工場を持っており、2010年にイギリス工場が完成する予定です。米国のプラントは1996年に稼働。選別方法は、プラスチックを細破砕し振動篩いと磁力、風力で選別。その後ABS、PP、PS、FPPといった素材ごとに分別します。この技術は特許もとっています。年間4万tの処理実績があり、イギリスの工場では8万tまでの処理が可能です。

加山順一郎取締役の全体所感

WASTE EXPOは車両、機器メーカーが独自のアイデアを駆使した商品が展示されていました。面白いアイデアも何点もあり、日本でも利用できそうなものは国内メーカーと打合せをしてみたいと考えています。

総じてアメリカでは、廃棄物の処理に関し、これまでは埋立依存であったとの現実を目の当たりにしました。リサイクルという言葉は、ほんの一部の国民には浸透しているようですが、ほぼ全土に渡り、「ごみ=埋めればいい」という考えが定着しているようです。焼却による発電、廃棄物を利用したエネルギー獲得という考えは、西海岸地域ではほぼ皆無。ただ、今後はいくら広大といえど土地は無尽蔵ではないので、何らかの問題も出てくるのではないかと思います。20年後を見越す、わが国の廃棄物処理技術に頼る日もそう遠くない気がします。今後、もう少しアメリカの廃棄物処理事情について学んでみようと思う。廃棄物処理におけるアメリカの姿勢は、日本、ヨーロッパ諸国と比べるとかなり大きく離されています。

アメリカ合衆国がリサイクルを真剣に考える日はくるのだろうか？